

は じ め に

第18回「平和を求めて」図書館資料展のテーマは、「空襲と暮らし」です。豊橋空襲をはじめ、浜松・豊川海軍工廠の空襲も取り上げました。豊橋・浜松・豊川の三市が受けた空襲の実態がどのようなものであったのか、当時の状況を伝える資料や写真をはじめ、実際に空襲を体験された方々の体験談をもとに紹介します。

アメリカ公文書館蔵の『戦術作戦任務報告』を見ると、日本への空襲が戦略的・科学的な根拠に基づいて行われたことが分かります。

多くの市民の生命・身体・財産を奪った「空襲」。「生きる」ために必死だった当時の人々の「暮らし」。繰り返してはならない「戦争の悲劇」。戦後60年以上が経過し、戦争の記憶が薄れゆく中、平和の尊さを次代に語り継ぐことが求められています。

この資料展を通し、平和の尊さを再確認していただければ、幸いです。

第18回「平和を求めて」図書館資料展目次

戦争への道・空襲への道	2
アメリカ公文書館資料から見る日本空襲の実態	3
戦争と暮らし・標語のはんらん	4
空襲にそなえて	5
空襲回数日本一の浜松	6
浜松空襲の実態	7
浜松空襲（艦砲射撃）の恐怖・越山美代子さんの場合	8
中小都市攻撃目標2番目・豊橋空襲	10
豊橋空襲の記憶・羽田光江さんの場合	12
豊橋空襲と空襲後	14
豊橋の復興	15
東洋一の豊川海軍工廠	16
アメリカ軍機密文書から見た豊川海軍工廠爆撃	17
生死を分けたもの・友の死を悼む・角谷和司さんの場合	18
海軍工廠空襲と豊川の復興	20
アメリカ公文書から見た日本被災地	22
戦争で失った父母と家・戦災孤児の救出	23
参考資料（豊橋市中央図書館蔵書）	24